

庭と現代美術…出来事を捕獲すること

都市は多くの文化を抱えており、可視化されることがなく消えゆく出来事に満ちている。多くの種類の庭園もまた、そのような出来事を抱えている。身近なもの（道端の植栽や自宅の庭など）から間遠なもの（神社の庭園など）まで含めた庭園は自然性と人工性が多様な形で結びついており、さながら生物と人工物による展覧会場のようなものである。

美術の領域は古典的な絵画や彫刻といった安定した形体を二〇世紀半ばに放棄し、より一過性の高い出来事の形体を構築してきた。インスタレーションと呼ばれる現代の代表的な手法はその一つの典型だと言える。しかし、これらも継承し、未来へと繋ぐためにはその出来事を何らかの形で捕獲しなければならない。

庭園もまた、恒常的ではない一過性の形体が様々な形で現れる領域だと言える。庭園はまるで変化し続ける展覧会場のように、消え去る多くの出来事を孕んでいる。それを継承するとはどういうことなのか、いかに継承可能なのだろうか。

現代美術と庭園という異なる領域を照応させることによって、現代の芸術を継承するための方法について考えたい。

G a r d e n s a n d C o n t e m p o r a r y A r t s :



図1: 瑞泉寺庭園 (撮影: 久保仁志)

登壇者
能勢伊勢雄
平諭一郎
久保仁志

2025年1月23日(木) 18-20時

場所: 慶應義塾大学三田キャンパス・東館4階オープンラボ

慶應義塾大学アート・センター「都市のカルチュラル・ナラティブ」プロジェクト(担当: 久保・馬淵)

Tel. 03-5427-1621 / cunary@art-c.keio.ac.jp

主催: 慶應義塾大学アート・センター

助成: 令和6年度 文化庁 Innovate MUSEUM事業

Web: <http://www.art-c.keio.ac.jp/news-events/event-archive/cultural-narrative-of-a-city-2025-1-23/>

応募フォーム:

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSem0xjQaK1Z3xmG11gilvgREt7T0yj0GQm12O1wd7cuxF59Iw/viewform>

* 前日の16時まで募集し、定員に満たない場合は、当日、上記WEBページにて参加可能人数をご案内します。その際、参加人数が定員に達し次第、参加できない可能性があることをご了承下さい。

時間割

17:45 | 開場

18:00-18:10 | 久保仁志

18:10-18:35 | 平諭一郎

18:35-19:00 | 能勢伊勢雄

19:00-19:30 | ディスカッション

19:30-20:00 | 来場者との質疑応答

20:00 | 閉場

C a p t u r i n g E v e n t s